

大阪市立大学 工学部 都市学科
大学院 工学研究科 都市系専攻 都市デザイン領域

教授 内田 敬 博士 (工学) Prof. Dr. Takashi Uchida
uchida@urban.eng.osaka-cu.(ac.jp)



研究テーマ名：

- ①視覚障害者の街歩き支援ナビシステム開発
- ②歩道・くつろぎ空間の評価指標開発
- ③市民－自治体間の情報往還のためのトレーサビリティ・システム

キーワード：公共，社会厚生，計画・評価，都市基盤施設整備，バリア・フリー，ユニバーサルデザイン，まち空間，住民主権，ICT，ケイタイ，画像解析，流況指標，データベース

高校生への一言：気軽に研究室へ見学に来て下さい（まずはメールで）。

大学での担当科目：都市交通計画，国土地域計画，プロジェクトマネジメント

大学院での担当科目：交通計画特論、特別演習（都市基盤計画）

所属学会：土木学会，交通工学研究会，大阪交通科学研究会，日本都市学会

1. 研究概要

①視覚障害者の街歩き支援ナビシステム開発

視覚障害者を含む誰でもが、迷う心配なく街歩きを楽しめるようにするための誘導サインやナビシステムを研究している。視覚障害者も対象とするから「ことばの地図」に重点をおいたケイタイ活用システムの開発などに取り組んでいる。

高橋咲衣，根本和幸，内田敬：視覚障害者向け音声 AR アプリの地物記述ガイドライン，第 33 回交通工学研究発表会論文集，pp. 509-514，2013.

内田敬，吉井芳聡：視覚障害者街歩き支援ナビの誘導システムに関する研究，土木計画学研究・論文集，Vol. 27，pp. 831-839，2010.

②歩道・くつろぎ空間の評価指標開発

歩道は単に歩く（通行する）ための空間ではない。街を愉しみ、人々が交流する場でもある。その様な機能を適切に整備していく際に用いるべき歩行者流況評価指標を開発している。

内田敬，又野健太郎，辻智香：歩行空間の特徴把握のための歩行者流況指標に関する研究，土木計画学研究・論文集，27，pp. 743-750，2010.

③市民－自治体間の情報往還のためのトレーサビリティ・システム

社会の主役である市民が公共投資・公共施設整備の意義や費用を、日常的に正しく認識することを支援する情報提供・閲覧の仕組みについて研究している。

松本浩和，内田敬：行政・市民間の情報ギャップ解消のための公的営造物の情報提供に関する研究，社会技術研究論文集(web)，Vol. 9，pp. 109-119，2012.

2. 高校生向けに提供可能な講演テーマの例（実績も含む）

上記①～③のいずれも可能。